



M3 用 Infor Factory Track ユーザー ガイド

リリース 6.00.x

重要事項

本書に含まれる資料(あらゆる補足情報を含む)は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料(当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む)、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約(この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます)に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的(以下、「目的」という)として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益(すべての修正、翻訳または翻案を含む)は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは本書に含まれる資料を正確で完全なものとするべく注意を払っていますが、Inforは本書に含まれる情報が完全で、誤植やその他の誤りがなく、使用者の特定要件に合致するものであることを保証しません。したがって、Inforは、本書(あらゆる補足情報を含む)の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

リリース: Infor Factory Track 6.00.x

発行日: 2018年6月18日

ドキュメントコード: ft_6.00.x_ftm3ug__ja-jp

目次

Infor Factory Track について.....	5
Infor へのお問い合わせ.....	5
第 1 章：概要.....	7
Warehouse Mobility トランザクションへのアクセス.....	7
Factory Track グループ.....	7
Factory Track ライセンスモジュール.....	8
第 2 章：パラメタの概要.....	9
サイトパラメタの設定.....	10
ユーザパラメタの設定.....	11
トランザクションプロファイルパラメタの設定.....	11
トランザクションプロファイルの作成と変更.....	11
トランザクションプロファイルパラメタの変更.....	12
第 3 章：メニュー管理の概要.....	13
画像の設定.....	13
アイコンの設定.....	14
メニュー保守の設定.....	15
メニューグループの設定.....	16
M3 用標準メニュー.....	16
第 4 章：複合バーコード.....	19
バーコード ID の使用.....	19
スキャン形式を使用.....	19
区切り文字タブを使用する.....	20
ID タブを使用する.....	20
トランザクションフィールドのスキャンマッピングを使用.....	22

Infor Factory Track について

Infor Factory Track は製造作業を操作するための総合的なコレクションシステムです。このアプリケーションは、作業現場と最新情報のやり取りを直接行えるように、お使いの ERP システムに直接統合されます。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するご質問は、Infor Xtreme サポートポータル (<http://www.infor.com/inforxtreme>) をご利用ください。

製品リリース後にドキュメントを更新した場合は、Infor Xtreme に新しいバージョンを掲載します。この Web サイトでドキュメントの改訂を定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントについてのご意見は、documentation@infor.com にお寄せください。

M3トランザクションを使用すると、ユーザーは以下のワークフローに関連する主要な Factory Track 処理を実行できます。

- 入庫、
- 出庫、
- 倉庫ロジスティック。

Warehouse Mobility トランザクションへのアクセス

Web ブラウザを使用して、Warehouse Mobility トランザクションへアクセスできます。これらの URL パスを使用してトランザクションにアクセスします。

- Warehouse Mobility リストベースメニュー:
<http://<utilityservername>/WSWebClient/Mobile.aspx?page=light&form=M3ListMenu.mobi¬itle=none>
- Warehouse Mobility アイコンベースメニュー:
<http://<utilityserver>/WSWebClient/Mobile.aspx?page=light&form=M3IconMenu.mobi¬itle=none>

注: これらの URL パスでは、実際のユーティリティサーバの名前を使用する必要があります。

モバイルスキャナデバイスで Warehouse Mobility を使用する場合は、いずれかの Warehouse Mobility メニューパスを指し示すようにデバイスを設定する必要があります。標準メニューはデバイスの方向キーを使ったナビゲーション用に最適化されており、アイコンベースメニューはタッチ入力でのナビゲーション用に最適化されています。

Factory Track グループ

Factory Track では、以下の権限グループがデフォルトで定義されています:

- [FT - 管理者]: Infor FactoryTrack 管理者グループ。管理者は他のユーザプロファイルを設定し、その権限レベルを定義します。管理者には最高レベルのアクセス権があります。管理者にはすべてのフォームへのフルアクセスがあります。通常、管理者は組織、コンフィギュレーション、セキュリティのパラメータを管理および保守します。管理者は、管理者ホームページフォームを使用して管理者の役割に関連するフォームにアクセスできます。

- [FT - M3WM]:Infor FactoryTrack WM M3 グループ。このグループは M3 実装に使用されます。これは、M3 実装のすべてのユーザに割り当てる必要があります。
- [Infor - SystemAdministrator]:このグループは Ming.le インタフェースによって Factory Track にユーザを追加するために使用されます。

Factory Track ライセンスモジュール

使用可能な Factory Track ライセンスモジュールとそのアクセス範囲は以下のとおりです。

- [FactoryTrackAuto]:IDO のアクセスに使用されます。
- [FactoryTrackCloud]:開発フォームでない全てのフォームにアクセスするための Cloud ライセンス。
- [FactoryTrackDev]:IDO 編集フォームや SQL テーブル/カラム編集フォーム、Factory Track 開発フォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackBase]:標準の Mongoose フォームも含む、Factory Track 管理フォームにアクセスできます。
- [FactoryTrackWMTrans]:Warehouse Mobility 専用のフォームにアクセスできます。

Infor Factory Track のパラメタフォームを使用すると、組織固有のニーズに合わせてアプリケーションをカスタマイズできます。パラメタフォームには以下の 2 つの種類があります。

- [トランザクション設定フォーム]:これらのフォームを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマに限定してください。使用可能なトランザクションパラメタ設定を定義できます。
- [パラメタ設定フォーム]:これらのフォームを使用して、アプリケーションやその個々のトランザクションの動作を設定できます。

トランザクション設定フォーム



注意: パラメタ設定フォームを使用するのは、アプリケーションのカスタマイズを許可されたプログラマに限定してください。このフォームに変更を加えると、アプリケーションが正しく機能しなくなる可能性があります。

トランザクション設定フォームは、アプリケーションで使用可能なトランザクションを決定するのに使用されます。このフォームを使用すれば、パラメタ管理システムにカスタムトランザクションを追加できます。このフォームでトランザクションプロファイルを作成し、そのトランザクションのパラメタ値とデフォルトパラメタ値を定義することもできます。

パラメタ設定フォーム

パラメタ設定フォームを使用すると、アプリケーションやその個々のトランザクションの動作を設定できます。アプリケーションでは以下のパラメタ設定フォームを使用できます。

- 「ユーザ拡張」:このフォームを使用して、個々のユーザの設定を構成します。
- 「トランザクションプロファイル」:このフォームを使用して、トランザクションプロファイルを作成および変更します。トランザクションプロファイルを使用して、異なるユーザ、ユーザグループ、ビジネス目標に対する特定のトランザクションパラメタの設定の定義が行えます。
- 「プロファイルパラメタ保守」:トランザクションプロファイルのパラメタを設定するにはこのフォームを使用します。

サイトパラメタの設定

- 1 サイトパラメタフォームを開きます。
- 2 以下の情報を指定します：

[サイト]

該当するサイトを指定します。サイト名と説明が表示されます。新しいサイトを作成する必要がある場合は、[サイト] フォームを開きます。

[ERP タイプ]

該当する ERP タイプを指定します。

- 3 フォームコンポーネント表示を生成するには、[文字列ビュー生成]、[コンポーネントビュー生成]、[メニュービュー生成] をクリックします。
- 4 [M3 通信] タブで、次の情報を特定します。

[WebサービスURL]

安全な M3 API Rest サービス URL を指定します。この URL は、グリッド情報ページにあります。

[認証方法]

M3 で認証されるこのメソッドを選択します。ユーザは利用可能な 2 つのメソッドの内 1 つのみを選択できます。

- [クライアント証明]: クライアント証明を選択する場合、クライアント証明と証明パスワードが必要です。
- [OAuth1.0a]: OAuth1.0a が選択されている場合、コンシューマーキーとシークレットキーが必要です。このキーは、プロビジョニングの前に CloudSuite 内で設定されます。

クライアント証明は M3 のオンプレミスインストールに適用され、OAuth1.0a はクラウドの M3 に適用されます。クライアント証明と OAuth1.0a ID には、run-as-m3user の役割が必要です。

[証明の検索]

このボタンを選択し、M3 Web サービスの認証に必要なクライアント証明を参照します。

[証明ロード済]

クライアント証明を選択する場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。

[証明パスワード]

クライアント証明パスワードを指定します。

[コンシューマーキー]

コンシューマーキーを指定します。

[シークレットキー]

シークレットキーを指定します。

- 5 ERP サーバとの接続を確認するには、[M3 通信] タブの [テスト接続] をクリックします。

ユーザパラメタの設定

個々のユーザを設定するには、ユーザ拡張フォームを使用します。

- 1 ユーザ拡張フォームを開きます。
- 2 既存のユーザにパラメタ設定をするには、グリッドでユーザIDを選択します。新しいユーザにパラメタ設定をするには、グリッドで空白行を選択し、[ユーザ名] フィールドでユーザ名を指定します。
- 3 以下の情報を指定または確認します：

[ユーザ区分]

ユーザが持つ権限を定義するには、ユーザ区分を選択します。

[メニューグループID]

このユーザのメニューグループIDを選択します。選択したメニューグループIDのメニューをこのユーザが利用できるようになります。

[ラベルプリンタ]

デフォルトのラベルプリンタを設定します。

[ERP文書プリンタ]

デフォルトの文書プリンタを設定します。

- 4 [保存] をクリックします。

トランザクションプロファイルパラメタの設定

このセクションではトランザクションプロファイルパラメタの作成と変更について説明します。

トランザクションプロファイルの作成と変更

トランザクションプロファイルフォームを使用して、トランザクションプロファイルを作成および変更します。トランザクションプロファイルを使用して、異なるユーザ、ユーザグループ、ビジネス目標に対する特定のトランザクションパラメタの設定の定義が行えます。

- 1 トランザクションプロファイルフォームを開きます。
- 2 新規のトランザクションプロファイルを作成するには、新規オブジェクト作成をクリックするか、グリッドの空白行を選択します。既存のプロファイルを変更する場合は、グリッドでそのプロファイルを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[プロファイル]

一意なプロファイル名を指定します。

[記述]

プロファイルの説明を指定します。以下の文字を説明で使用しないでください。アンパサンド: & コンマ: , 閉じカッコ:) 開始カッコ: (

- 4 [保存] をクリックします。

トランザクションプロファイルパラメータの変更

トランザクションプロファイルのパラメータを設定および変更するには、プロファイルパラメータ保守フォームを使用します。

- 1 プロファイルパラメータ保守
- 2 トランザクションプロファイルのパラメータを変更するには、最初に左側にあるトランザクションリストから変更するトランザクションを選択してから、下のプロファイルリストで特定のプロファイルを選択します。
- 3 選択したトランザクションプロファイルで、右側にあるグリッドから利用可能なパラメータを変更します。
- 4 [保存] をクリックします。

このプロセスでは、ユーザの明確な開始メニューグループを使用して URL にログインするロジックを説明します。

特定の URL で次の操作を実行します。

- 1 ユーザ名、パスワード、および設定で特定の URL にログオンします。
- 2 アプリケーションは、ユーザ拡張フォームの [メニューグループ] の妥当性をチェックします。
 - a ユーザ拡張フォームに値を設定しない場合、アプリケーションはサイトパラメタフォームの [メニューグループ] をチェックします。
- 3 次に、アプリケーションは URL タイプ (アイコンまたは URL のリスト) を検証します。
 - a URL がアイコンベースの場合、アプリケーションは特定のメニューグループのアイコンメニュースタイル上位レベルメニューをチェックします。
 - b URL がリストベースの場合、アプリケーションは特定のメニューグループのリストメニュースタイル上位レベルメニューをチェックします。
- 4 上記の基準に基づいて、アプリケーションはユーザの開始 [メニュー] を表示します。

画像の設定

画像フォームを使用して、画像を追加します。アイコンメニューにアイコンを作成するとき画像が使用されます。

- 1 画像フォームを開きます。
- 2 新しい画像を追加するには、新規をクリックするか、左グリッドで空白の行を選択します。既存の画像を修正するには、左グリッドからそのアイコンを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[画像ID]

固有の画像 ID を指定します。既存の画像を変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[記述]

画像の説明を指定します。

[イメージラベル]

画像のラベルを指定します。

[画像]

画像を読み込むには、画像ボックスを右クリックします。画像をドラッグしてドロップするか、またはファイルの選択をクリックして画像を参照します。選択した画像をアップロードするには、[アップロード] をクリックします。

- 4 [保存] をクリックします。

アイコンの設定

アイコンフォームを使用して画像を特定のアイコンに割り当てます。

- 1 アイコンフォームを開きます。
- 2 新しいアイコンを追加するには、新規をクリックするか、左グリッドで空白の行を選択します。既存のアイコンを修正するには、左グリッドからそのアイコンを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[ERP タイプ]

ERP タイプとして Infor-M3 を選択します。

[アイコンID]

固有のアイコン ID を指定します。既存のアイコンを変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[画像]

ドロップダウンリストから画像を選択して、画像をアイコンに割り当てます。画像は画像フォームで設定されます。

[アイコンラベル]

アイコンにラベルを指定します。

[アクション区分]

アクション区分を指定します。メニューまたはトランザクションプロファイル。選択したアクション区分に応じて、プロファイルまたはメニュータブが有効になります。

- 4 [プロファイル] タブで、以下の情報を指定します

[トランザクション名]

このアイコンに関連付けるトランザクション名を選択します。

[プロファイル]

このアイコンに関連付けるトランザクションプロファイルを選択します。

- 5 [メニュー] タブで、[アイコンメニュー] を選択します。アイコンメニューはメニュー保守フォームで設定されます。
- 6 [保存] をクリックします。

メニュー保守の設定

メニューのカスタマイズ、メニュー、サブメニュー、トランザクションプロファイルおよびその配列順、スキャンボックスのサポートおよび最大メニューオプションの設定には、メニュー保守フォームを使用します。

- 1 メニュー保守フォームを開きます。
- 2 新しいメニューを追加するには、新規をクリックするか、左グリッドで空白の行を選択します。既存のメニューを修正するには、左グリッドからそのメニューを選択します。
- 3 以下の情報を指定します：

[ERP タイプ]

ERP タイプとして Infor-M3 を選択します。

[メニュー名]

一意なメニュー名を指定します。既存のメニューを変更する場合、このフィールドは読み取り専用です。

[記述]

メニューの説明を指定します。

[表示名]

メニューには短く、わかりやすい表示名を指定します。この値は、モバイルスキャナデバイスに表示される実際のリストメニューまたはアイコンメニューに使用されます。

[最大メニューオプション]

このメニューに含めるメニューオプションの最大数を指定します。アイコンメニューには、最大 9 個のメニューアイコンまたはトランザクションプロファイルアイコンを表示する必要があります。

[スキャンボックスを含む]

このメニューでスキャンボックス機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

[メニュー区分]

メニュー区分を選択します(アイコンまたはリスト)。

[メニューオプション]

メニューオプションを追加、削除、変更するには、[メニューオプション] タブの右側にあるボタンを選択します。

- 新規のメニューオプションを追加するには、[追加] をクリックします。メニューオプションを追加する方法に関する詳細については、ステップ 4 または 5 を参照してください。
- [削除] をクリックして選択したメニューオプションを削除します。
- 既存のメニューオプションを修正するには、リストからそのメニューオプションを選択し、下のアイコン、メニュー、またはプロファイルタブの値を更新します。
- [上] または [下] をクリックして、メニューオプションの順序を設定します。

- 4 現在のメニュー区分がアイコンである場合、[追加] をクリックして、下の [アイコン] タブでアイコン情報を指定します。

[アイコンID]

アイコン ID を選択します。アイコンはアイコンフォームで設定されます。

[アクション区分]

このフィールドは、選択したアイコン ID のアクション区分に応じて自動的に入力されます。

5. 現在のメニュー区分がリストである場合、[追加]をクリックし、オプション区分を選択して、下のメニューまたはプロファイルタブでメニューオプションを指定します。

[オプション区分]

[オプション区分] カラムで、メニューまたはトランザクションプロファイルを選択します。選択したオプション区分に応じて、メニューまたはプロファイルタブが有効になります。

[メニュー] タブで、メニュー名を選択します。選択したメニュー名は現在のメニューのサブメニューになります。

[プロファイル] タブで、トランザクション名とトランザクションプロファイルを選択します。

- 6 [保存] をクリックします。

メニューグループの設定

メニューグループフォームで、メニュースタイルの上位レベルメニューを指定します。

- 1 メニューグループフォームを開きます。
- 2 新しいメニューグループを追加するには、新規をクリックするか、左グリッドで空白の行を選択します。既存のメニューグループを修正するには、左グリッドからそのメニューグループを選択します。

- 3 以下の情報を指定します：

[メニューグループID]

一意なメニューグループ ID を指定します。

[記述]

メニューグループの説明を指定します。

- 4 [メニュー] タブでグリッドを選択します。新規のメニューを追加するには、[新規] をクリックし、次の情報を指定します。

[メニュースタイル]

メニュースタイルを選択します(アイコンメニューまたはリストメニュー)。

[グループ区分メニュー名]

既存のアイコンメニューまたはリストメニューを選択します。選択したメニューがこのメニュースタイルの上位レベルメニューになります。

[表示名]

このフィールドは、選択したグループ区分メニュー名に基づいて自動的に入力されます。

- 5 [保存] をクリックします。

M3 用標準メニュー

このアプリケーションでは、以下の M3 用標準メニューセットが利用できます。

- 上位レベルのリストメニューは WMM3MainMenuList です。
- 上位レベルのアイコンメニューは WMM3MainMenuIcon です。
- 各リストサブメニューの形式は WM xxFunction List です (例: WMM3InboundList)
- 各アイコンサブメニューの形式は WM xxFunction Icon です (例: WMM3InboundIcon)

複合バーコードを使用して、Factory Track の M3 トランザクションの関連する保守フォームすべてにアクセスします。

バーコード ID の使用

ユニークなバーコード ID を作成するためにこのメンテナンス フォームを使用してください。新たに作成されたレコードはサポートされているバーコードの汎用タイプを示しています。

注:

- [スキャン形式 ID] を [バーコード ID] に統合しなければなりません。
- シングルスキャン形式 ID を異なるバーコード ID に統合することができます。

バーコード ID 形式で、欠勤コードを新規作成するには:

- 1 [新規] をクリックします。
- 2 以下の情報を指定します:

[バーコードID]
ユニークなバーコード ID。

[記述]
作成するバーコード ID の説明。

[スキャン形式ID]
[スキャン形式 ID] の値を選択します。

- 3 [保存] をクリックします。

スキャン形式を使用

スキャン形式 ID を作成するには、この保守フォームを使用します。新たに作成されたレコードはサポートされているバーコードの汎用タイプを示しています。

新しいレコードを作成するには、スキャン形式フォームで次の操作を行います。

- 1 [新規] をクリックします。
- 2 [スキャン形式 ID] の値を指定します。
- 3 新しい [スキャン形式 ID] の記述を指定します。
- 4 新しく作成された ID をサポートされるバーコードの汎用タイプに含めるには、[システムレコード] チェックボックスを選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

注:

スキャン形式フォームは 2 つのタブで構成されます。

- [区切り文字]:このタブを使用して、スキャン形式 ID の区切り文字を定義します。20 ページの「区切り文字タブを使用する」を参照してください。
- [識別子]:このタブを使用して、スキャン形式 ID の識別子を定義します。20 ページの「ID タブを使用する」を参照してください。

区切り文字タブを使用する

この保守フォームを使用して、各スキャン形式 ID で使用する区切り文字 (/ - スラッシュ) を定義します。

スキャン形式 ID で、新しいレコードを作成するには:

- 1 区切り文字を統合する必要があるスキャン形式 ID を選択します。
- 2 [区切り文字] をクリックします。
- 3 フォームの最初の行をクリックして、スキャン形式 ID の選択を確認します。
- 4 [新規] をクリックします。以下の情報を指定します:
 - a [区切り文字のスキャン] カラムの空白スペースをクリックし、1 文字を指定します。
 - b [説明] カラムの空白をクリックし、区切り文字に関連する説明を入力します。
 - c [保存] をクリックします。

ID タブを使用する

この保守フォームを使用して、各スキャン形式 ID のアプリケーション ID を定義します。

注: AI ごとに複数のバージョンを作成できます。

スキャン形式 ID で、新しいレコードを作成するには:

- 1 識別子を統合する必要があるスキャン形式 ID を選択します。
- 2 [識別子] をクリックします。
- 3 フォームの最初の行をクリックして、スキャン形式 ID の選択を確認します。
- 4 [新規] をクリックします。以下の情報を指定します:

[アプリケーション識別子]

5 文字以下のコード。これは必須フィールドです。

[バージョン]

アプリケーション識別子のバージョン。デフォルトでは、このフィールドは [1] に設定されています。ユーザは同じ ID に対して異なるバージョンを作成できます。

[記述]

識別子の記述。

[データタイプ]

識別子に関連するデータタイプ。オプションは次のとおりです。

- [文字列]: テキストを示します。
- [数値]: 番号を示します。
- [日付]: 日付を示します。形式は [日付形式のスキャン] フィールドに定義されている設定に基づいていなければなりません。

これは必須フィールドです。

[固定長]

このチェックボックスを選択している場合、識別子は [最大長] 欄に定義されている値に基づく固定長でなければなりません。

注: このチェックボックスをオフにしている場合、識別子は [最大長] 欄に定義されている値以下になることがあります。

[最大長]

識別子に必要な最大文字数。これは必須フィールドです。

[日付形式のスキャン]

日付形式。[データタイプ] フィールドが [日付] に設定されている場合のみ、ユーザはこのフィールドを編集できます。適用される形式は次の通りです。YYYYMMDD、YYMMDD、MMDDYYYY、YYMM および MMY Y ここで DD は [01] にハードコードされています。

[小数論理]

このチェックボックスをオンにすると、[識別子] は小数論理値を使用します。例えば、サンプル: [C112422995 の場合]、]C1 は [スキャン形式 ID]、124 は [識別子]、2 は [小数点以下の桁数] および 2995 は小数点で示される値です。結果: 29.95。

注:

- このフィールドは [識別子] がデータタイプ、[数値] に設定されている場合に有効になります。
- このチェックボックスがオフの場合、[識別子] は小数論理値を使用せず、ユーザは [小数点以下の桁数] フィールドに値を指定できます。

[小数点以下桁数]

設定中の [識別子] の小数点以下の桁数。例えば、サンプル: [C11242995 の場合]、]C1 は [スキャン形式 ID]、124 は [識別子] および 2995 は小数点で示される値です。結果: 29.95。

注: このフィールドは [小数論理] フィールドが無効の場合にのみ有効です。

5 [保存] をクリックします。

トランザクションフィールドのスキャンマッピングを使用

この保守フォームを使用して、トランザクションごとのフィールド単位のマッピングに基づいて、スキャン済フィールドを特定のトランザクションプロファイルの適切なフォームフィールドにリンクします。

新規のレコードを作成するには、トランザクションフィールドのスキャンマッピングフォームで次の操作を行います。

- 1 設定のトランザクションプロファイルを選択します。
- 2 フォームをクリックします。[新規] ボタンを使用できます。
- 3 [新規] をクリックします。
- 4 以下の情報を指定します：

[フィールド名]

リストからの設定するフィールド名。

[スキャン形式ID]

[スキャン形式 ID] を使用します。

[アプリケーション識別子]

フィールド名に関連するアプリケーション識別子。

[バージョン]

アプリケーション識別子のバージョン。デフォルトでは、このフィールドは 1 に設定されています。ユーザは同じ ID に対して異なるバージョンを作成できます。

[記述]

作成するバーコード ID の説明。

- 5 [保存] をクリックします。